

(様式5)

# 調査報告書

訪問調査日	平成 20年 11月 28日
調査実施の時間	開始 10時 00分 ~ 終了 14時 45分

訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 花々館 郡山 ( 鹿児島県 )
-------------------	----------------------------

## 外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<u>11</u>
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を实践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を实践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<u>2</u>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<u>6</u>
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<u>11</u>
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	<u>30</u>

評価調査員の氏名	氏名 <u>山下 賀子</u>
	氏名 <u>中村 朋美</u>
事業所側対応者	職名 <u>管理者・事務担当・ケアマネージャー</u>
	氏名 <u>金里利恵・馬場しか子・安楽 孝</u> ヒアリングを行った職員数 <u>5 名</u>

**※記入方法**

- 「取り組みの事実」欄は、ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入してください。
- 「取り組みを期待したい項目」欄は、今後、さらに工夫や改善が必要と思われる項目に○をつけてください。

**※項目番号について**

- 外部評価項目は30項目です。
- 「外部」にある項目番号が外部評価の通し番号です。
- 「自己」にある項目番号は自己評価で該当する番号です。参考にして下さい。

**※用語について**

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含む。(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含む。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含む。

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年12月23日

## 【評価実施概要】

事業所番号	鹿児島県指定 第4670104860号		
法人名	医療法人 佑志会		
事業所名	グループホーム 花々館郡山		
所在地	鹿児島県鹿児島市郡山2157番1 (電話) 099-298-4078		
評価機関名	NPO法人 自立支援センターかごしま 福祉サービス評価機構		
所在地	鹿児島市星ヶ峯4-2-6		
訪問調査日	平成20年11月28日	評価確定日	平成20年12月29日

【情報提供票より】(平成 20年 10月 1日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17年 12月 15日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	18 人 常勤 15人, 非常勤 3人, 常勤換算 17.1人

## (2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り
	2階建て 1～2階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	12,000 円	
敷金	有( 円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 20,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	350 円
	夕食	300 円	おやつ	円
	または1日当たり		800 円	

## (4) 利用者の概要 (H20年 10月 1日現在)

利用者人数	13 名	男性	2 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	0 名		
要介護3	6 名	要介護4	4 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 83.08 歳	最低	68 歳	最高	96 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	守屋病院 前島医院 藤井歯科
---------	----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは医療法人を母体としており、入居者の希望に合わせたリハビリテーションの通院支援や24時間体制で医療連携がとれ、バックアップ体制が充実している。職員は各種委員会に所属し毎月勉強会を行っている。他グループホームとの交流を通しケアサービスの質の向上を目指し、自己研鑽意欲も高い。入居者が自宅のような居心地のよさを目指して、チームワークで取り組んでいる。また入居者からいたわりや励ましの言葉をもらい感謝しながら、支え合う関係を大切にしている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	地域密着型サービスとしての理念の見直しを行い、職員を育てる取り組みとして、他グループホームとの交流を通し資質の向上を図るなど改善されている。
重点項目①	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者は評価の意義を職員に説明し、自己評価を全職員で行い、評価結果をもとに改善に向けた話し合いを持ち、サービスの質の向上に活かすよう取り組んでいる。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月ごとに会議を開催し、入居者の状況・活動内容・行事案内・事故報告等を行い、意見をもらいながら対応策を検討している。警察官にも参加してもらい、行方不明になった場合の対策について話し合う等、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の面会時に直接話す機会を持ち、何でも話してもらえよう雰囲気作りを留意している。運営推進会議や家族会でも意見を出してもらいよう働きかけ、出された意見は運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	民生委員や地域代表者の協力で、ホーム便りを回覧してもらい情報提供を行っている。近所の保育園や小中高校の運動会に参加したり、地域の文化祭に入居者の作品や手芸品等を出展し見学に行ったり地域との交流に努めている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念に加え、地域との交流を大切に、地域の中でその人らしく生活できる環境作りを支援する理念ができています。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者や職員は、朝の申し送り時に理念の唱和を行い、理解を深めながら、日々のケアに反映するよう取り組んでいる。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	民生委員や地域代表者の協力で、ホーム便りを回覧してもらい情報提供を行っている。近所の保育園や小中高校の運動会に参加したり、地域の文化祭に入居者の手芸品等を展覧したり見物に行くなど、地元の人々との交流を図っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、全職員で自己評価に取り組み、意見や情報をケアの質の向上に活かしている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に会議を開催し活動内容や行事案内・事故報告等を行い意見をもらっている。警察官にも参加してもらい、行方不明になった場合の対策について話し合う等、サービスの向上に活かせるよう取り組んでいる。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者とは運営推進会議以外にも入居者の状況について情報交換を行うなど連携を図っている。市の主催する研修会に参加したり、介護相談員も受け入れている。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や家族会・行事参加時に暮らしぶりや近況を報告している。ホーム便りの他に、毎月一人ひとりの写真入り近況報告書を作成し、健康状態も含めて報告している。また会計収支報告も行い家族のサインをもらっている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の面会時に直接話す機会を持ち、意見や苦情等をしやすい雰囲気作りに留意している。運営推進会議や家族会等で出された意見は運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者と職員との馴染みの関係を重視し、職員の異動は最小限に抑えている。やむを得ず異動があった場合は入居者や家族に紹介し、信頼関係が築けるよう配慮している。		
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修は職員が交代で参加し伝達講習も行っている。毎月の法人内研修にも参加している。また各種の委員会活動があり、毎月交代で勉強会を行い質の向上に取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会の研修に参加したり、近隣のグループホームと交流を図り、施設見学や毎月の勉強会で事例を研鑽し合いながらサービスの質の向上に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、事前に本人や家族の意向を聞き、ホームを見学してもらい、他の入居者と一緒にお茶を飲みながら場の雰囲気に馴染めるよう配慮し、安心して入居できるように支援している。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者は人生の先輩であるという考えを職員は共有しており、掃除・洗たく物たみ・調理・園芸作業等、入居者の背景やその場面に応じた支援を行いながら、一緒に過ごし支えあう関係を築いている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの情報や日々の生活の中で本人の意向や希望を聞きながら、自分で選択できる場面を多く作り、本人の意向にそった支援を行っている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族から意向や希望を聞いたり、スタッフ会議や申し送り時に職員の気づきや意見交換を行い、個別に応じた具体的な介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は6ヶ月毎に定期的見直しを行っている。毎月モニタリングを行い、状態変化時は随時見直しを行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族と話し合いながら、本人の意向にそった通院支援や美容院・買い物等の送迎を行うなど柔軟に対応している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者及び家族が希望するかかりつけ医となっており、適切な医療が受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化した場合における看取りの指針」について入居時に説明し同意書をもっている。重度化した場合には再度主治医や職員が家族と話し合いをもち、方針の共有化を行い支援する体制作りができています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者は職員に、個人情報の保護やプライバシーの確保に留意し、自尊心を大切にされた声かけや対応の仕方を指導している。面会簿も個別に設置して入る。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の健康状態やその日の気分を大切に、食事や入浴時間をずらしたり、散歩や外出の支援をする等、本人のペースに合わせ柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者個々の有する力をふまえて、食事の下ごしらえや味付け・盛り付け・片付けなど、できることを一緒に行いながら食事を楽しめるよう支援している。誕生会には本人の好きなメニューで祝っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	1階の浴室は車椅子利用者が入れるよう機械浴も設置し対応している。毎日入浴ができるが、入浴を好まない入居者には意向をよく聞きながら、本人の満足のいくような入浴支援を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の生活歴や趣味を考慮しながら、調理・家事・絵・短歌・俳句・読書・カラオケ・音楽鑑賞など、それぞれの生活を楽しめるよう支援している。入居者は食前の嚥下体操や発声練習をいきいきと行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日常的なホーム周辺の散歩や車で買い物に出かけたり・花見・イチゴ狩り・ソーメン流し・外食など、外出の機会を多く作っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りと気配りを重視し、日中は玄関の鍵をかけずに自由な暮らしを支援している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回、消防署の協力を得て防災訓練を実施している。防災委員会を中心として、毎月防災自主訓練も行っている。地域の方にも協力していただけるよう声かけを行っている。災害時の備蓄もある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取状況が毎日記録されている。食事の摂取状況に合わせて食事形態も工夫している。毎月体重測定を行い、医師と相談し食事コントロールを行っている。法人内の栄養士に献立を立ててもらい栄養バランスに配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やテーブルには季節の花が飾られ、リビングには入居者と職員が一緒に作った作品が展示されている。ソファもありカーテンやよしずで光の調節をするなど、ゆったりとして居心地よく過ごせる共用空間である。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、仏壇・テレビ・写真等が飾られ、それぞれの居室が安心して居心地よく過ごせるよう工夫されている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。